

PAI 原子力産業セミナー2018 報告

2017年4月4日
 (一社)日本原子力産業協会

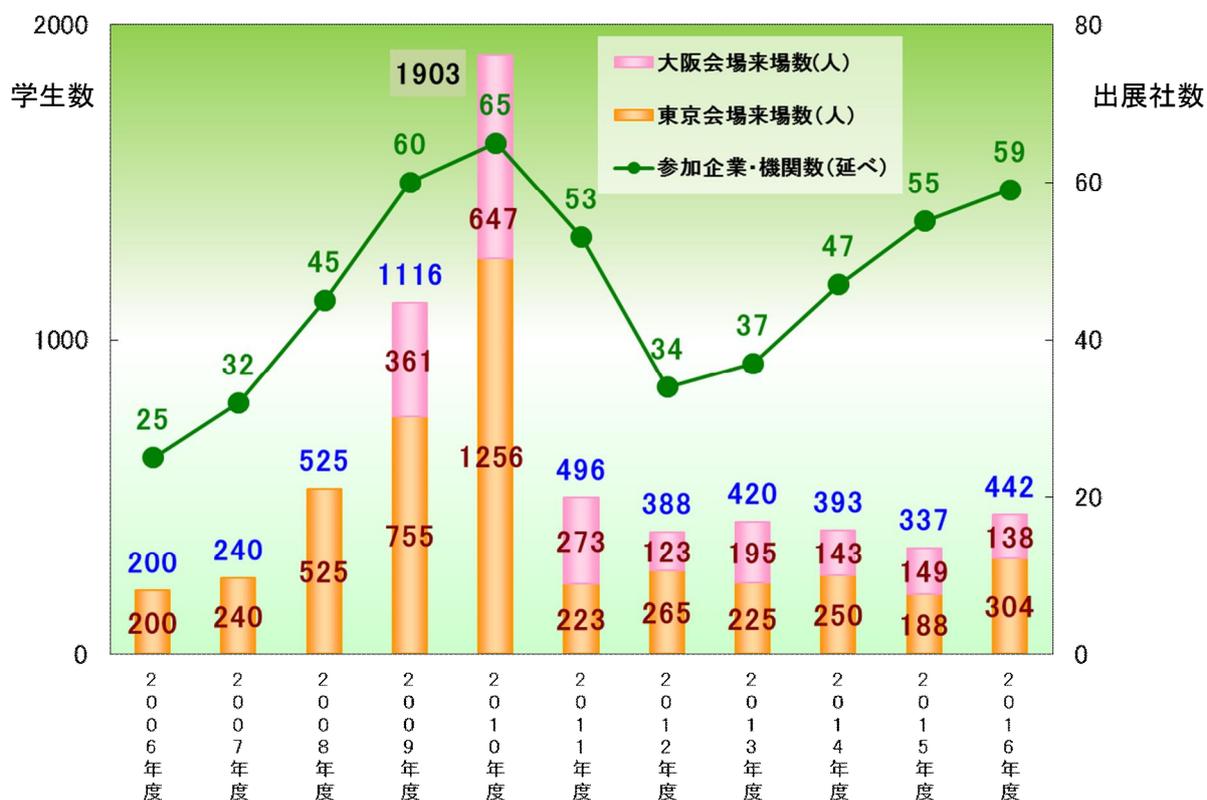
原産協会は関西原子力懇談会と共催で、原子力産業界の人材確保支援と原子力産業への理解促進のため、合同企業説明会「PAI 原子力産業セミナー2018」を、3月4日に東京・秋葉原で、3月11日に大阪・梅田で開催した。来場学生数は震災以来、減少傾向にあったが、今回、東京と大阪会場に来場した学生は442人（東京304人、大阪138人）で、昨年より105人増となった。出展企業・機関数も東京・大阪合わせて59社と、2011年度以降最多となり、原子力産業界の人材採用への強いニーズが伺える。

1. 概要

() 内の数字は昨年度

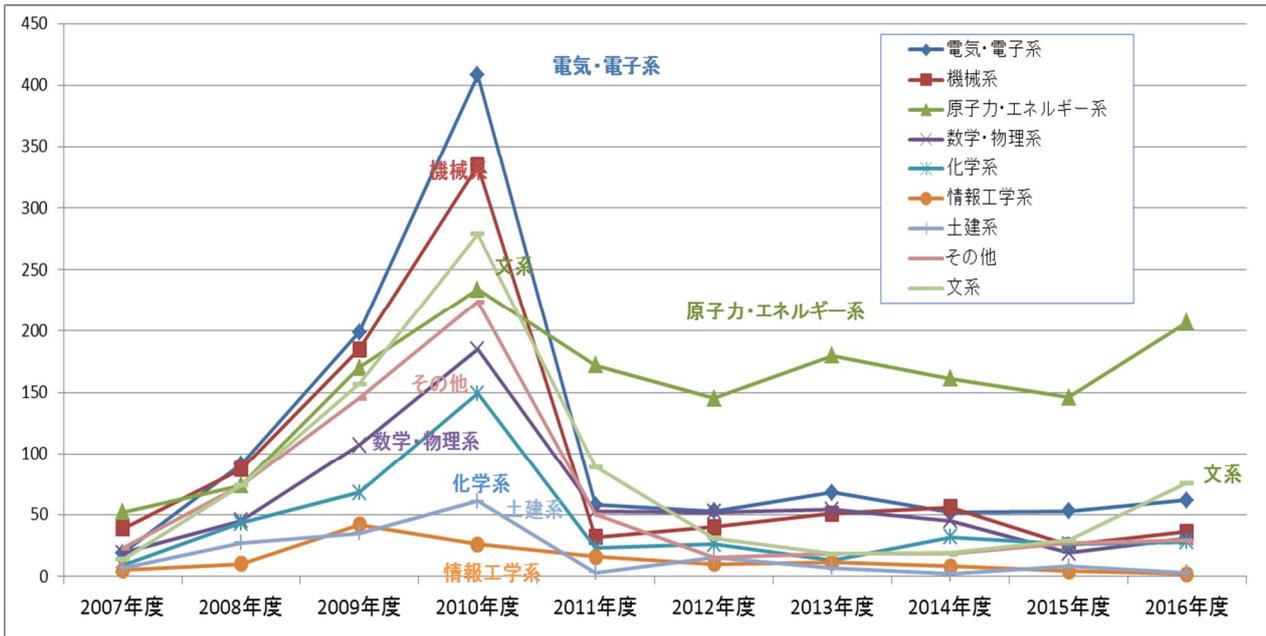
	東京会場	大阪会場	
開催日	2017年3月4日(土)	2017年3月11日(土)	
開催場所	秋葉原 UDX ビル AKIBA SQUARE	梅田スカイビル アウラホール	合計
来場学生数	304人(188人)	138人(149人)	442人(337人)
参加企業・ 機関数	36社(31社)	23社(24社)	59社(55社)

原子力産業セミナーの来場学生数および参加企業・機関数の推移



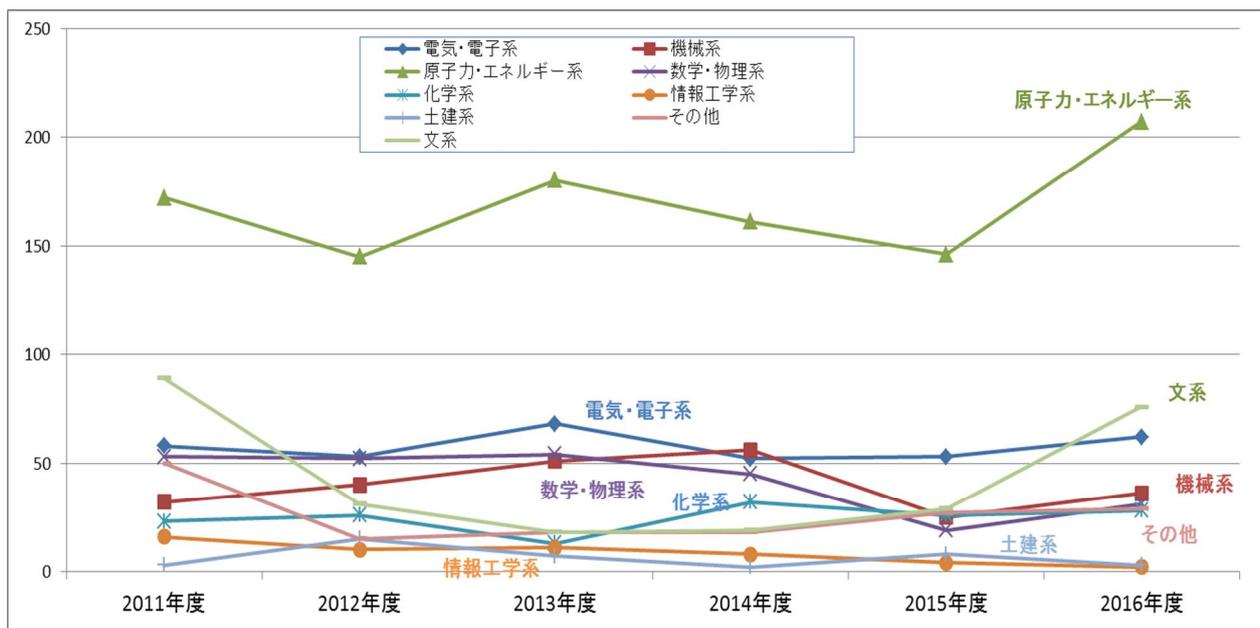
2. 来場学生の学科別人数の経年変化（東京会場＋大阪会場）

来場学生の専攻の推移



来場学生は、2015年度の337人（東京188、大阪149）から、2016年度は442人（東京304、大阪138）へ増加した。来場学生の学科別では、多い順に①原子力・エネルギー系（44%）②文系（16%）③電気・電子系（13%）④機械系（8%）⑤数学・物理系（7%）⑥その他理系（6%）⑦化学系（6%）⑧土建系（1%）となっている。原子力・エネルギー系の学生の来場者数は大幅増、他の工学系学科も概ね増加した。一方、文系は昨年に比べて大幅増加し、来場学生の2位を占めた。文系が2位になったのは2011年度以来のことで、原子力産業の人気度を示すバロメーターとしても注目される。

2011年度以降の来場学生の専攻の推移



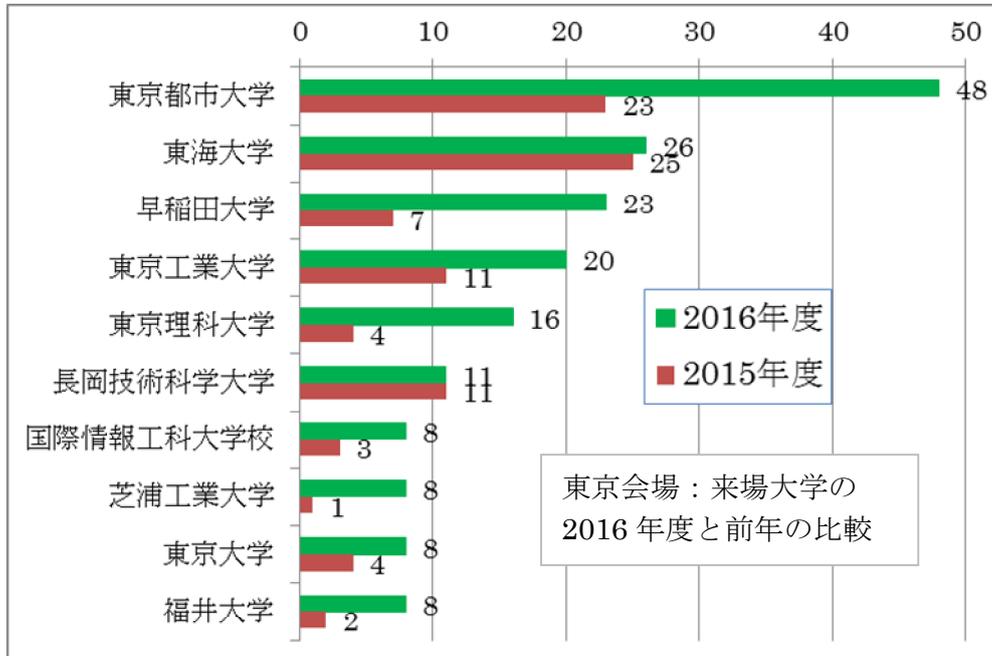
3. 参加企業・機関一覧（*：初参加）

	出展企業	東京	大阪
電力関連企業			
1	東北電力(株) *	○	—
2	東京電力ホールディングス(株)	○	○
3	中部電力(株)	○	○
4	北陸電力(株)	○	○
5	関西電力(株)	○	○
6	中国電力(株)	—	○
7	日本原子力発電(株)	○	○
8	J-POWER (電源開発(株))	○	—
重電メーカー			
9	(株)東芝	○	○
10	(株)日立製作所(日立GEニュークリア・エナジー(株))	○	○
11	三菱重工業(株)	○	○
プラント・エンジニアリング企業等(五十音順)			
12	(株)アトックス	○	○
13	MHIニュークリアシステムズ・ソリューションエンジニアリング(株)【三菱重エグループ】	○	—
14	(株)クリハラント	○	○
15	(株)ケーイーシー *	○	—
16	原子燃料工業(株)	—	○
17	(株)原子力エンジニアリング *	—	○
18	原電エンジニアリング(株) *	○	○
19	原燃輸送(株)	○	—
20	(株)コーガアイソトープ	—	○
21	新日本空調(株)	○	—
22	(株)セレス *	○	—
23	太平電業(株)	—	○
24	(株)千代田テクノル	○	○
25	(株)テブコシステムズ	○	○
26	(株)東京エネシス	○	—
27	東京パワーテクノロジー(株)	○	—
28	東芝プラントシステム(株)	○	—
29	東電設計(株)	○	—
30	(株)日本環境調査研究所	○	○
31	日本原子力防護システム(株)	○	○
32	日本原燃(株)	○	○
33	(株)BWR運転訓練センター	○	—
34	(株)日立プラントコンストラクション	○	—
公益・独立行政・研究法人(五十音順)			
35	公益財団法人 核物質管理センター *	○	—
36	一般社団法人 原子力安全推進協会 *	○	—
37	原子力規制委員会 原子力規制庁	○	○
38	原子力人材育成・確保協議会 *	○	—
39	原子力発電環境整備機構	○	—
40	一般財団法人 電力中央研究所	○	—
41	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構	○	○

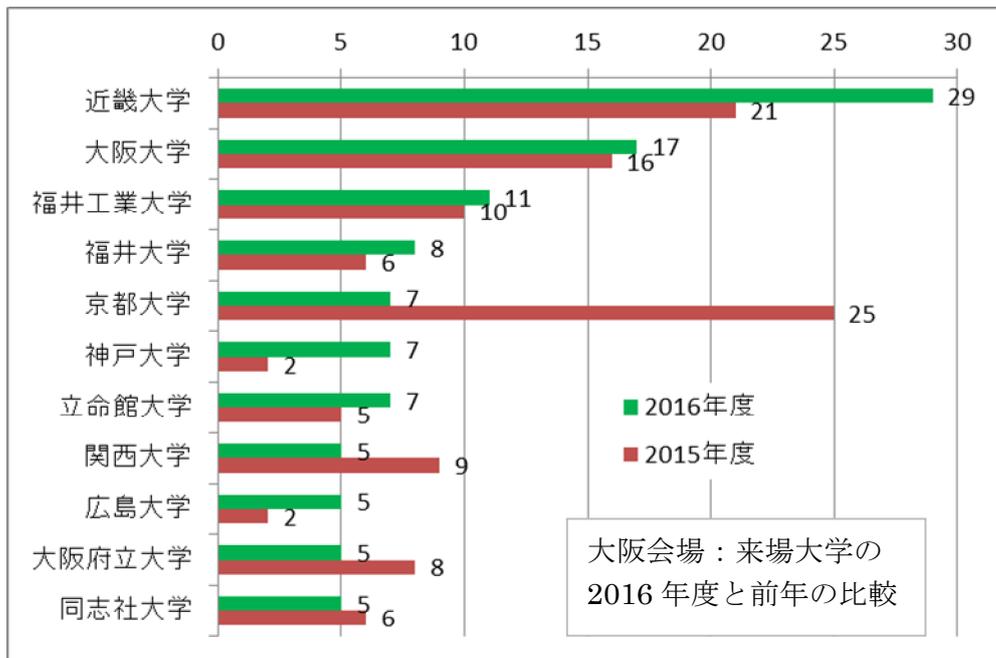
4. 来場学生のデータ（大学名）

今セミナーでは、91校から442人が来場した（昨年度は89校から337人）。東京会場には68校から304人が来場（昨年度は65校から250人）、大阪会場には37校から138人が来場した（昨年度は34校から149人）。グラフは各会場の上位10位校の来場者数（今年度、昨年度）。

（東京会場）

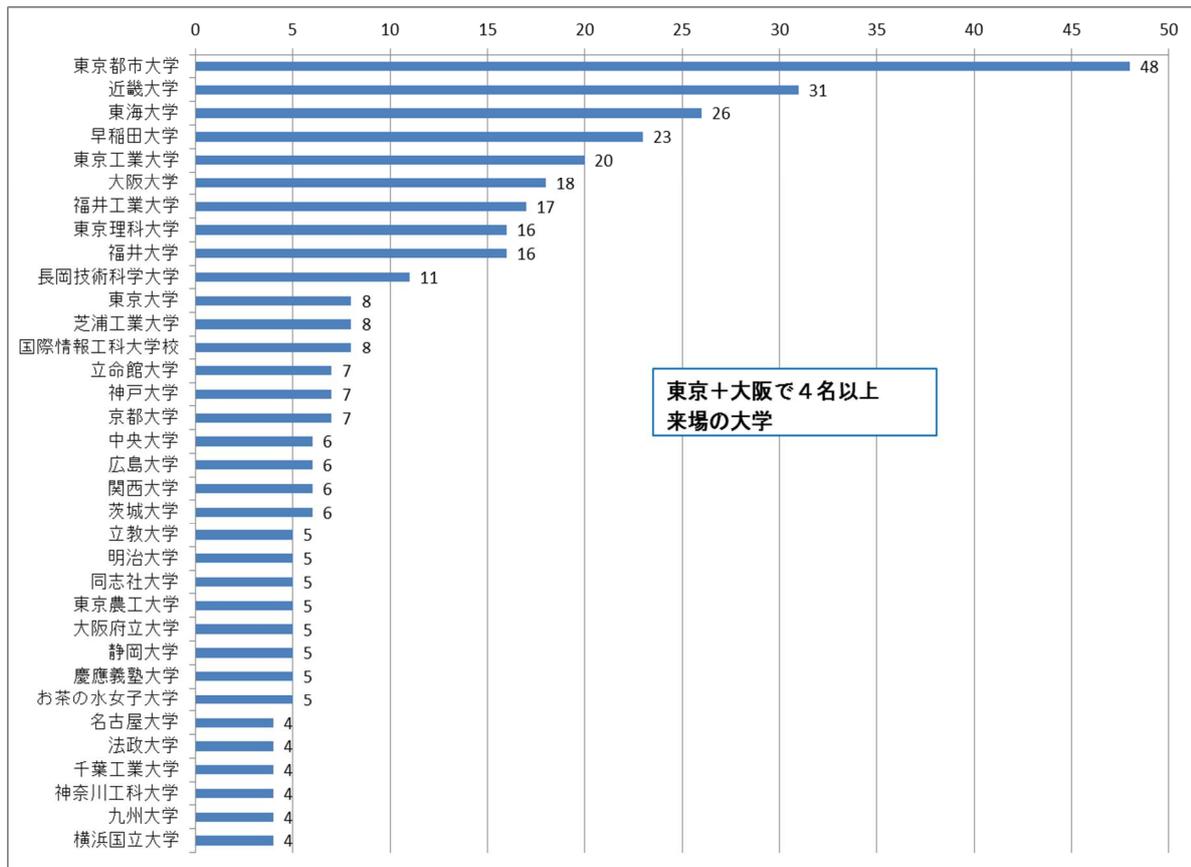


（大阪会場）



(東京+大阪：4人以上来場の大学)

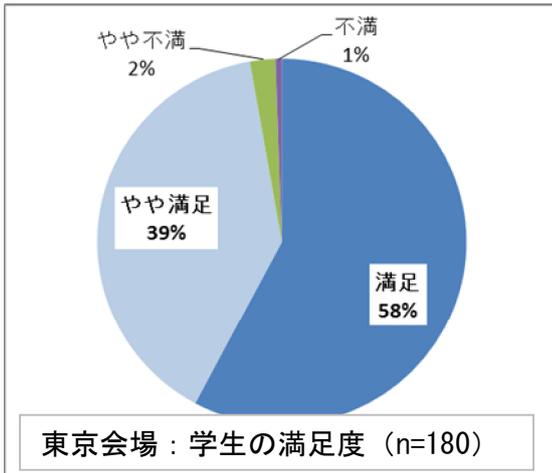
今セミナーの東京会場と大阪会場に4人以上来場者のあった大学・高専等の来場者グラフは、以下の通り。



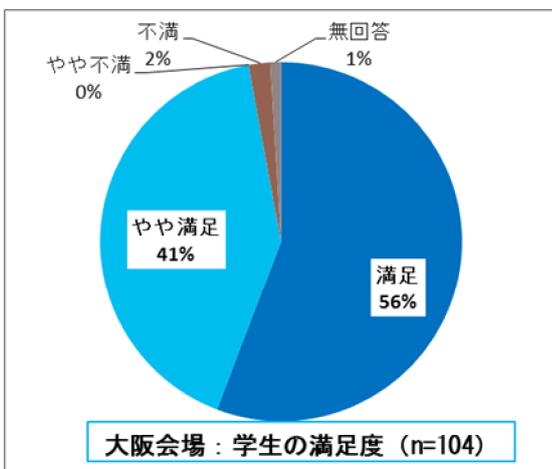
5. 原子力産業セミナー2018の主な特徴

- ・ 業務委託先をリクナビに変更したことから、ツイッター（SNS）での広告展開など、インターネットと電子メールを多用した新しい広報手法を採ることができ、東京・大阪合計で来場学生が105人（+31%）増加した。（主な広報の手段がチラシ、ハガキ等の紙媒体からメールやWEB登録などの電子媒体へシフトした。）
- ・ 事前にイベントを開き広報を行った。12月に東京と大阪で「プレイベント」を開催、延べ21社の会員会社・団体と、73人の学生が参加した。また、東京理科大と東京農工大の計4キャンパスで「学内セミナー」を開催し、合計49人の学生が参加した。
- ・ 就職先として学生の原子力産業への否定的感情が根強いことから、原子力よりも、主な出展企業を前面に出す広報を行った。
- ・ セミナー参加は基本事前予約制とし、予約者には確実に参加してもらえるようにリマインドメールを送った。
- ・ 東京会場では、女子学生の割合は例年よりやや多かった（304人中40人=13%、例年は10%以下）。
- ・ 東京、大阪会場ともに例年より文系の割合が高かった（東京会場304人中50人=16%、大阪会場138人中23人=17%）（昨年度は東京会場9.6%、大阪会場7.4%）。
- ・ 3/1の採用活動解禁後、なるべく早い時期に開催することが学生の来場を促すのに有効であるため、来年は、3月3日（土）に東京・秋葉原で、3月7日（水）に大阪・梅田で開催の予定。

6. 参加学生の主な感想



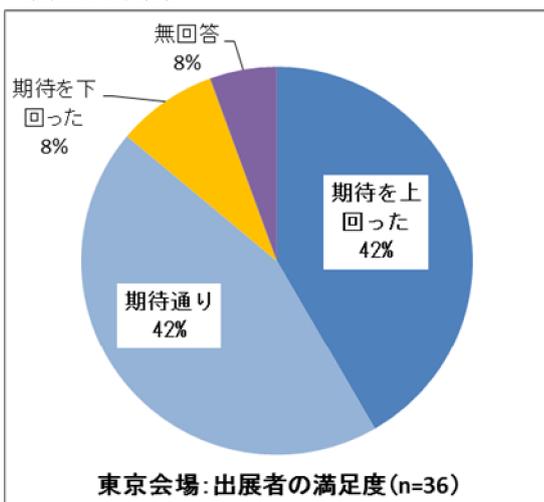
- ・あまりなじみのない企業の雰囲気分かった。
- ・原発だけのイメージだったが、原子力を使って空調や食品にも応用されている事を発見できた。原子力産業は有名な企業だけでなく、様々な企業に支えられて成り立っていることが今回のセミナーで分かった。
- ・文系出身なので難しいと感じる一方で、人々の生活を根底から支えているという事がより分かった。
- ・夏前にインターンシップを開いてはどうか。



- ・志望している電力会社の原子力に関する仕事がよく理解できた。
- ・世間で知られている放射線や原子力が間違っただけで伝えられている事に気付いた。
- ・ロボットに参入しているところもあったので今後就活していく上で参考になった。
- ・世の中では原子力発電にマイナスなイメージがあるが、今回の説明を聞いて火力や水力などと共存すべきだと思った。
- ・理系に向けた説明が多かったので場違いな感じがして不安だった。

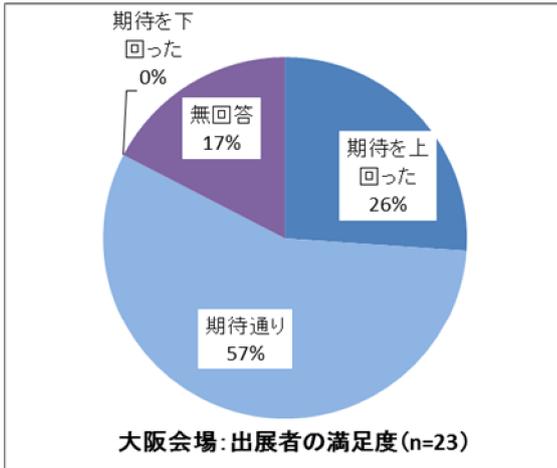
7. 参加企業・団体の主な感想

(東京会場)



- ・効果大きい。個別の大学でやるより効率的である。
- ・関心が高く良い学生が来てくれた。自ら来訪する学生が多く積極的な印象を受けた。
- ・イベントの開催が効果的で是非次回もお願いしたい。
- ・会場の場所（秋葉原）が良いため多くの学生が来てくれた。
- ・学生の大学レベルは昨年より高め(例年より質が高い印象)。学生からの質問内容は、採用に関する事、原子力事業の将来性等。

(大阪会場)



- ・ 前年と比較して訪問学生が多く盛況であった。また、積極性が高い学生が多かった。
- ・ 文系学生が増加した。非原子力の方が多かった。
- ・ 当庁について聞いたことがある学生は多いが内容を知らない方が大半であり、そういった学生に説明できたことはよかった。
- ・ 放射線に対する理解があり、真面目な態度で対応していた。

8. 後援・協賛

以下の通り、17 団体・機関からの後援・協賛を頂いた。

後援：原子力委員会、文部科学省、経済産業省、原子力人材育成ネットワーク

協賛：応用物理学会、核物質管理学会 日本支部、国立高等専門学校機構、電気学会、日本化学会、日本機械学会、日本経済団体連合会、日本原子力学会、日本工学教育協会、日本電気協会、日本電機工業会、日本保健物理学会、プラズマ・核融合学会

9. 会場の模様

(東京会場)



会場外のサイン表示



受付の様様



休憩コーナーでも企業と学生が交流



企業ブース

(大阪会場)



読売 TV のインタビューに答える学生



ブースでの面談風景

以上